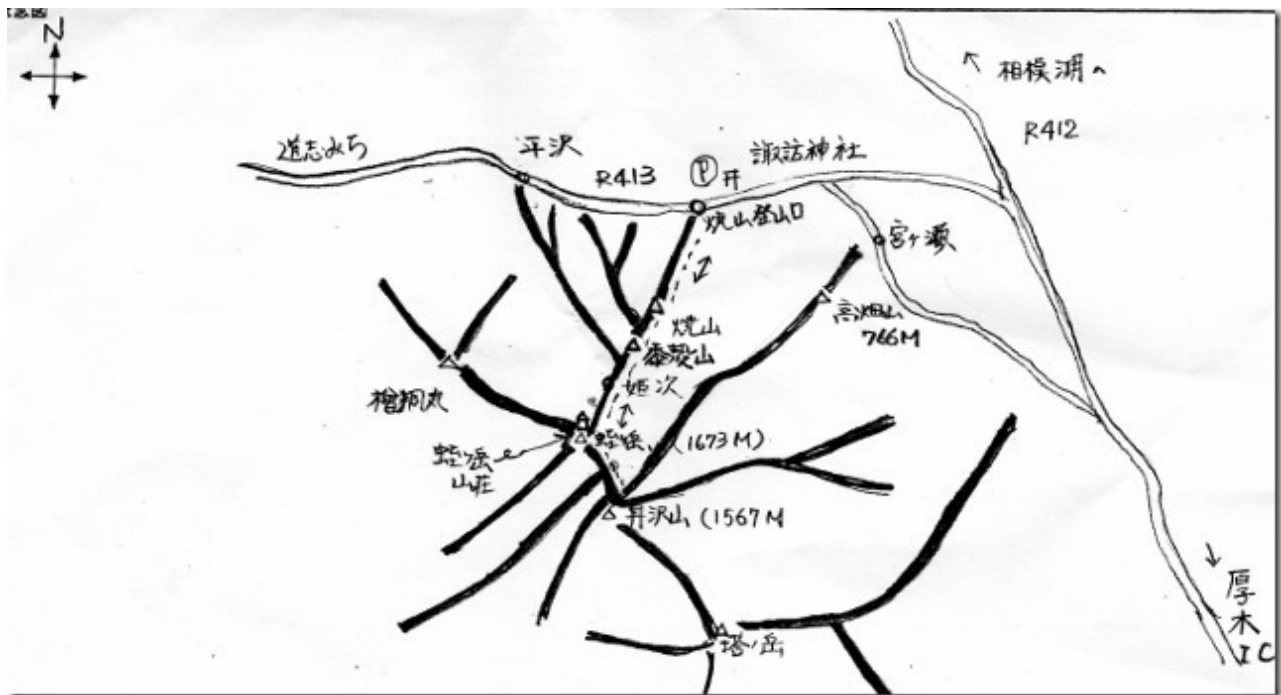


丹沢山系・蛭が岳（1673m）と丹沢山（1567m）

2014年12月22日(月)～23日(火)

メンバー：磯部N(リーダー)、ふじ、JO



12月22日(月) 晴れ

正月山行をひかえての足慣らしに、丹沢の核心といわれる蛭が岳を経て、100名山の丹沢山へ。北側の焼山（ヤマ・1060m）と黍殻山（モミガラマ・1272m）を経由して、主脈縦走コースを歩いてみました。

数日前の寒波の襲来で、登山口までのアプローチも凍結が心配で厚木インター経由にしましたが、杞憂に終わりました。

焼山登山口には、ヒルに注意の看板が立てられ、「帰路には体にヒルが付いていないか確認するように」、「里にヒルを持ち込まないように」という珍しい内容が書かれていました。



展望台から宮ヶ瀬湖を遠望

東海自然歩道と重なる登山道は整備状態も良く、歩きやすい、なだらかな道が続きます。
天気も良く、気持ちの良い落ち葉の道でした。
焼山の山頂には展望台もあり、遠くスカイツリーまで確認でき、姫次からは目の前に大きな富士山が望めて、しばしの写真タイムとなりました。



富士山・・・

ここから、雪や凍結が徐々に増えてきました。

アイゼンは着けませんが、丹沢名物の木の階段が続く最後の長い上りは階段の上が凍っている所以足の置き場に注意です。



木の階段をがんばって登る



雪は少ないが、凍っていて滑る！

ようやく、本日の宿泊所、蛭が岳山荘に到着。
水は高いので、三人で6 Lを持ち上げて、自炊にしました。（ちなみに2 Lで1 2 0 0円。）



蛭ヶ岳山頂にて

この日の宿泊客は7人でした。
小屋からの小田原、横浜方面の夜景がすばらしく、思わず見とれました。

<タイム> 焼山登山口（7:47）－蛭ヶ岳&蛭ヶ岳山荘（15:15）

12月23日(火) 祝日 晴れ

朝から天気良く、心配した風もほとんど無く、蛭ヶ岳山荘から一旦下って丹沢山へ。
凍結でのスリップに気を配りながら鬼岩もあつという間に通過して、富士山を背にしながらの快適な尾根歩きでした。

丹沢山は三回目でしたが、今までで一番積雪が無く、晩秋の山の様。
祝日の為、この日は人が多く、反対コースからも大勢来ていました。



丹沢山頂で記念撮影

丹沢山の山頂で、富士をバックに記念撮影を済ませて、引き返しました。
蛭が岳山荘に戻る頃にはベンチにたくさんの人が休んでいました。



戻って蛭が岳山頂の山荘前にて、みなさん富士山見ながら休憩

下りは凍結の木の階段を緊張しつつ、時折よけたりしながら下りました。でも、階段が終わった途端に気を抜いたのか、アイスバーンに気がつかず、二人はげしく転びました。全体的には昨日に比べ、雪もかなり溶けて歩きやすい道でした。帰りには、せっかくなので黍殻山の避難小屋ものぞいてみました。新しく広く清潔で、快適に過ごせそうな小屋でした。

登山口ではみんなでヒルがないのを確認して車に戻りました。足慣らしとしては長い山行でした。

<タイム> 蛭が岳山荘（7:20）－丹沢山（9:05）－蛭が岳山荘（11:20）－焼山登山口（16:15）

磯部N記

以上